

事務局報告

報告:沼田 栗実

部門概要: 事務局運営

(事務局スタッフ:代表…沼田/事務局長…秋山/会計…堂前・本庄)

- 目的: 月1回の運営会議、各事業の進捗管理、人材育成、事務所運営、管理など、会のスムーズな運営のために活動する。

<事務局の仕事>

- 1) 即決断が求められたときの決定機関
- 2) 運営会議の準備
- 3) 総会準備
- 4) 会計、資金繰り
- 5) 助成金の申請とその手配
- 6) メール・リングリストの管理
- 7) メールのチェック
- 8) NPO法人関連手続き
- 9) 全般的なコーディネート
- 10) 対外的な交渉など(マンション関連他)
- 11) 記録・写真・スクラップの整理・管理

- 経過:

- ① 月1回の運営会議は継続的に実施
- ② 会報は1回発行した
- ③ 事務局会議は適宜開催
- ④ 他団体、企業からの依頼に対応

- 結果・効果:

- ① 運営会議、事務局会議の実施
- ② 会報の発行 2024年2月の1回発行
- ③ 助成金獲得 なし

- 課題:

2023年度も、各々の生業がある中でも、活動に積極的に参加してくれたスタッフに、この場を借りて、お礼申し上げます。

- ① 事業面

2023年度は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症も5類相当に引き下がり、イベント等も少しずつコロナ流行以前に戻りつつある中で、少ない人数で各部事業を実施していたこともあり、事務局活動は省力にならざるを得なかったが、その中でも、前年度に引き続き、札幌市主催「LGBTのためのエイズ検査」の企画提案・広報・相談員派遣だけができ、検査機会の提供の一助となったと考えている。また、厚生労働省研究班(MSM ALL JAPAN)の活動にも引き続き協力させていただき、(一社)にじいろほっかいどうと共にイベントの企画・運営・班会議に参加することができた。また、2023年度も様々な団体・企業・行政機関のつながり、活動ができた年になったと感じている。

- ② 資金面

資金面では、助成金の獲得はできなかった。2022年度の事業に対する助成金・さぼーとほっと基金の精算払いがあったが、bda オーガニックの助成金の精算払いは、事業実施がまだ完了していないため、2024年度の精算払いになっている分が、赤字決算となっている。

助成金だけではなく、相談員派遣に伴う謝金、キルト販売の収益、会員の皆さまによる会費納入の他、ご寄附もいただき、運営できた。

③ 運営面

2023 年度も、短期目標を掲げ、少ない人数ながらも各部事業を実施してきた。スタッフそれぞれが、外部のオンライン研修等に積極的に参加し、研鑽につとめることもできた。市内はもとより、道内、全国の関係機関との連携も芽が出つつあると考えています。

新年度も、引き続き

(1)講演活動、電話相談のさらなる質の向上に注力する。

(2)陽性者交流会事業の継続開催を通じて、ネットワークを広げていく。

(3)次の20年を担う新規スタッフを計画的に育成するために、スタッフ募集と研修をおこなっていく。

(4)会の趣旨や考え方などをしっかり継承していける体制を作る。

(5)賛助会員や寄付者に向けた継続的なフォローや広報を引き続きおこなうのと同時に、助成金の安定的な獲得など資金面の基盤作りをする。

以上について、必要があると考え、まずは、短期目標達成を目指し、全スタッフで取り組んでいきたい。

最後に、新年度も引き続き、より多くのスタッフが、自分にあった関わり方で、活動に参加してほしいと考えている。「イベントに参加する」「事業の担当になる」という形だけではなく、イベントまでの準備や、ブログの更新、動画配信の構想・編集、資料の発送作業等々、細かい活動も多いので、できることをできる範囲で、関わってもらえるよう、事務局もメンバーリスト等を用いて、呼びかけていきたい。正会員に限らず、ヘルプスタッフからも新しい提案(些細なことでも構いません)をたくさんしてほしいと考えているので、やりたいことがあれば相談できる事務局体制を築いていきます。よろしく願いいたします。